

令和元年度第3回外部評価モデル小委員会議事概要

- I. 日 時：令和元年10月9日（月）10：00～12：00
- II. 場 所：公益社団法人 私立大学情報教育協会事務局
- III. 出席者：角田担当理事兼総括委員長、大原主査、片岡委員、佐渡友委員、酒井委員
事務局：井端事務局長、中村

IV. 検討事項

大原主査が議長となり、議事次第に沿って以下の通り検討した。

1. 思考力等の外部点検・評価・助言モデル構想案について

事務局長から前回の委員会で提出した資料①の「外部評価モデル構想の確認と課題洗い出し(メモ)」について、改めて以下のような報告・説明が行われ、構想の骨子について確認した。

- ① 提案の背景は、生涯に亘って学生が身に付けておくべき考える力や表現する力などの到達状況を第三者の観点から客観的に点検・指摘し、卒業までに身につける訓練として提案するため、成績評価モデルとして誤解を招かないよう、小委員会のテーマを「思考力等の外部点検・評価・助言モデル構想の提案」に変更して研究することにした。
- ② これまでの知識獲得を中心とした学修到達度の点検・評価は、暗記型学修を誘発し、結果として本質を捉える学修を後退させてきた。そこで、従来の点検・評価に加えて、思考力、判断力、創造力、表現力の到達度を点検・評価・助言するため、クラウド上で外部者からビデオ試問を行い、記述回答した内容から論理的・批判的思考力、合理的判断力、価値を見出す発想力・創造力、論旨明快な表現力の到達状況を点検・評価し、学生に助言をフィードバックする仕組みを考えた。
- ③ クラウドを活用した外部者による点検・評価の仕組みは、各分野又は分野横断の「点検・評価コンソーシアム」を大学又は関係団体等でクラウド上にプラットフォームを構築し、「外部点検・評価検討会議(仮称)」を設置して、学修の到達目標、到達度の内容と測定方法、点検・評価コンテンツの公募(点検・評価者の適格性基準、点検・評価コンテンツの募集要領)、点検・評価コンテンツの厳選方法、学生に点検・評価結果をフィードバックする仕組み、点検・評価クラウドの構築及び運営など基本方針の策定を行う。当面は、分野別の点検・評価の仕組みを優先する。
- ④ ビデオ試問は、例えば、映像、写真、アニメーション、図・表などを用いたビデオコンテンツを点検・評価クラウドに多数蓄積しておき、学生が教室のパソコン等端末を介してヘッドフォンや字幕などから問題を受けとり、記述でクラウドに回答を行う。評価は、ビデオコンテンツを作成した外部者を含む3人程度の評価者で第1段階の点検・評価を行い、その結果を踏まえて授業担当教員が第2段階として総合的に点検・評価し、助言をフィードバックする。
- ⑤ 論理的・批判的思考力、合理的判断力、価値を見出す発想力・創造力、論旨明快な表現力の到達状況をレーダチャート化し、助言を添付することにより、自主的に学びを振り返るPDCAサイクルの好循環を身に付けさせることが可能となる。
- ⑥ 学修到達度の点検・評価基準の策定は、コンソーシアムの「外部者の点検・評価会議」で策定した到達点検・評価基準に沿って、本協会が平成24年度にとりまとめ公表した分野別の学修到達目標を再度確認し、その上で能力要素の内容・水準をルーブリック化して、点数表示する。
- ⑦ 本モデルは、生涯に亘って学生が身に付けておくべき思考力、判断力、創造力、表現力などの訓練に活用することを第一義としているが、学年進行で外部者による点検・評価の継続性が見通せる段階になれば、卒業年時における学修成果の質保証のエビデンスとして活用することが可能である。なお、本モデルの適用対象は、美術・デザイン系分野での作品自体の独創性・芸術性・社会貢献価値や製作技術や、知識・技能の量及び正確性を中心とする実技・実演・実習、資格取得を目的とした分野には適当でなく、学外機関が実施する試験などによる点検・評価が適当である。
- ⑧ 点検・評価問題の収集は、外部点検・評価検討会議で選定した適格者にビデオ諮問の作成を依頼し、提供されたビデオ試問コンテンツについて点検・評価基準との整合性を確認した上で、ク

ラウドに蓄積する。

- ⑨ 外部点検・評価コンソーシアムの構築は、持続可能なコンソーシアムの拠点をどのように設けるのか、有志の大学間で持ち回りとする方法、本協会をはじめとする教育関係団体などとする方法がある。当面は、本協会の学系別FD/ICT活用研究委員会、サイバーキャンパスコンソーシアム運営委員会が中心となり、分野ごとにコンソーシアムを設けて対応する。なお、分野横断のコンソーシアムの構築は、分野別コンソーシアムを基盤に大学関係者、社会の有識者で構成する。
- ⑩ 学修成果の質保証システムとしての有効性を検証するため、パイロット的な試行プログラムを策定し、プラットフォーム構築・運営に伴う資金確保と体制、点検・評価・助言に伴う人的組織の整備・運営方法などの実現可能性及び有効性について、本協会でもパイロット的に実験を行い、検証する必要がある。その際、試行プログラムで扱う対象は、到達目標の再確認などに比較的取り組みやすい一部の文系、理系の分野を選定して行う。

2. ビデオ試問のイメージ映像と評価の観点について

角田委員から資料②の機械工学分野の「評価問題のたたき台」として「小水力発電」をテーマにした問題について説明が行われ、ビデオ試問のイメージ映像と評価の観点について意見交換を行ったところ、以下の点を中心に作成し、次回に改めてコンテンツのイメージ映像について検討することにした。

- ① Webに文章と写真で問題を表示するのではなく、試問する内容を言葉で語りかけるビデオ映像にする。その際、資料として写真、動画、データなどを掲載するが、敢えて使用しない資料も掲載する。
- ② 科学的に仮説を立てて検証する思考プロセスを点検できるような試問内容とする。
- ③ 小水力発電の問題からマクロ的な観点でエネルギー確保問題、二酸化炭素の排出が少ない社会問題につながるように工夫する。
- ④ 学生1人ひとりの思考力等を伸ばすための適切な助言を引き出すように工夫する。
- ⑤ 試問はPBLを履修していることを前提とする。
- ⑥ ビデオ試問に要する時間は90分で答えられるように作成することにした。

3. 点検項目等のルーブリック化について

事務局長から資料③の「分野別モデルの点検項目等のルーブリック化について(メモ)」に沿って、点検項目の構成、ルーブリックの構成、助言のフィードバックについて、以下の通りの説明と意見交換が行われ、次回にルーブリックの形で提案することにした。

- ① 思考力等の学修到達度を点検する項目として、能力要素として、論理的な思考力、批判的な思考力、合理的な判断力、科学的な考察力、問題発見・解決力の到達目標と評価の観点について逐一読み上げられ、表現力など能力要素の追加とメモの内容について、今後さらに推敲することにした。
- ② 能力要素を評価項目とし、評価の観点別に到達度の状況を「ほとんどできていない」から「発展が見える」の4段階とし、点数表示する。
- ③ クラウドのWebサイト上で点数の平均値が自動集計され、レーダチャート化できるようにする。
- ④ 助言の内容については、テンプレートを作成しておくことを考える。

4. その他(次回開催日の決定)

今回は、11月13日(水)午前10時に開催することを決定した。

